第２節　小串構内の試掘調査

１　医学部慰霊碑・納骨堂新営に伴う試掘調査

(1) 調査の経過

小串構内に所在する附属図書館医学部分館の周辺が環境整備されるに伴い、図書館南側の前庭部に慰霊碑・納骨堂の新営が計画された。このうち納骨堂新営は地下1.5mに及ぶ基礎掘削工事を伴うため、埋蔵文化財資料館運営委員会の判断に基づき、埋蔵文化財資料館では新営予定地に東西４m、南北3.8m、面積15.2㎡の調査区を設定し、10月28・29日の２日間にわたり試掘調査を行った。

(2) 基本層序（Fig.68, PL.34）

基本層序は、現地表下約85cmまでが第Ⅰ層：マサ土による表土、約85～110cmが第Ⅱ層：旧建物基礎、約110～140・260cmが第Ⅲ層：暗黒茶色土・黒色石炭灰（せきたんばい）の造成土、約140～152cmが第Ⅳ層：暗灰色粘質砂の水田耕土、約152～160cmが第Ⅴ層：暗緑黄色土の水田床土、約160～178cmが第Ⅵ層：暗白黄色・灰白色・暗白紫色粘質砂の整地土、約178cm以下が第Ⅶ層：暗白色粘質砂の地山となる。第Ⅲ－2b層は、小串構内で広範にみられる石炭の灰を主体とする黒色の造成土である。西壁にみられるように、地山を大きく削り込んでいる部分もみられる。なお、土層断面図は各壁面の土層の一部を示した。

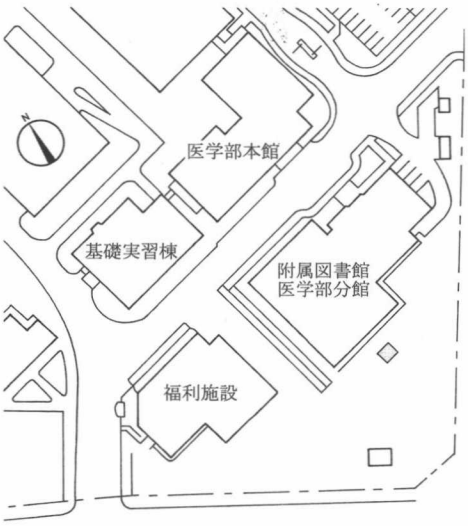


Fig.66　調査区位置図

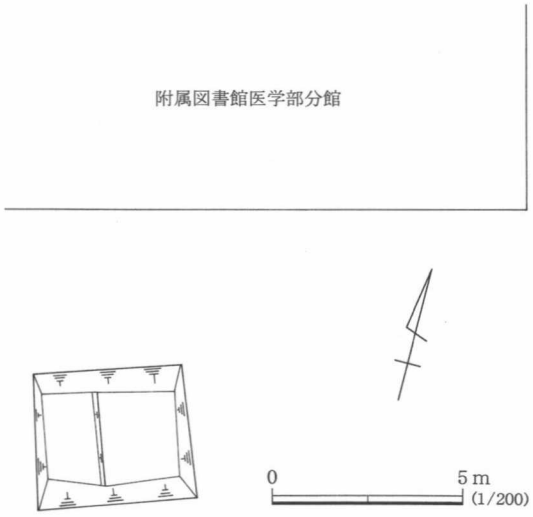
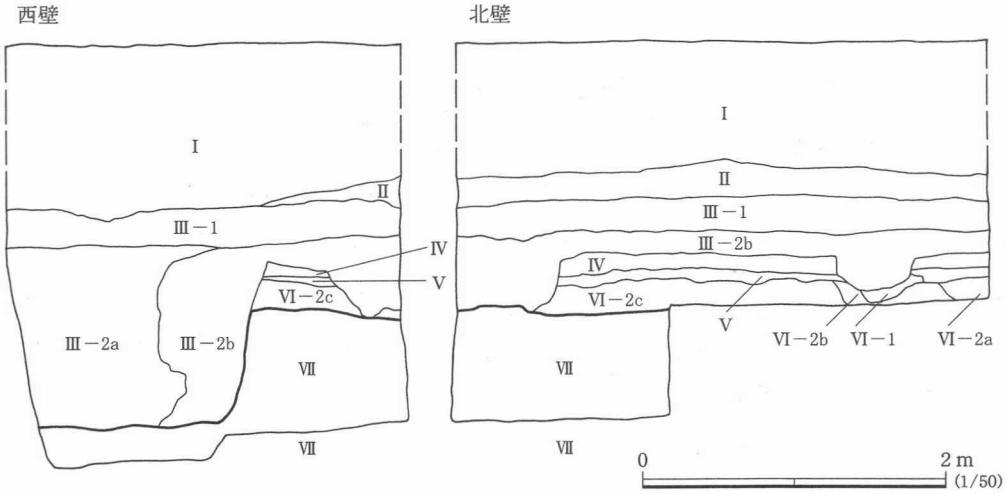


Fig.67　調査区設定位置図

小串構内全景（南から）



基本層序

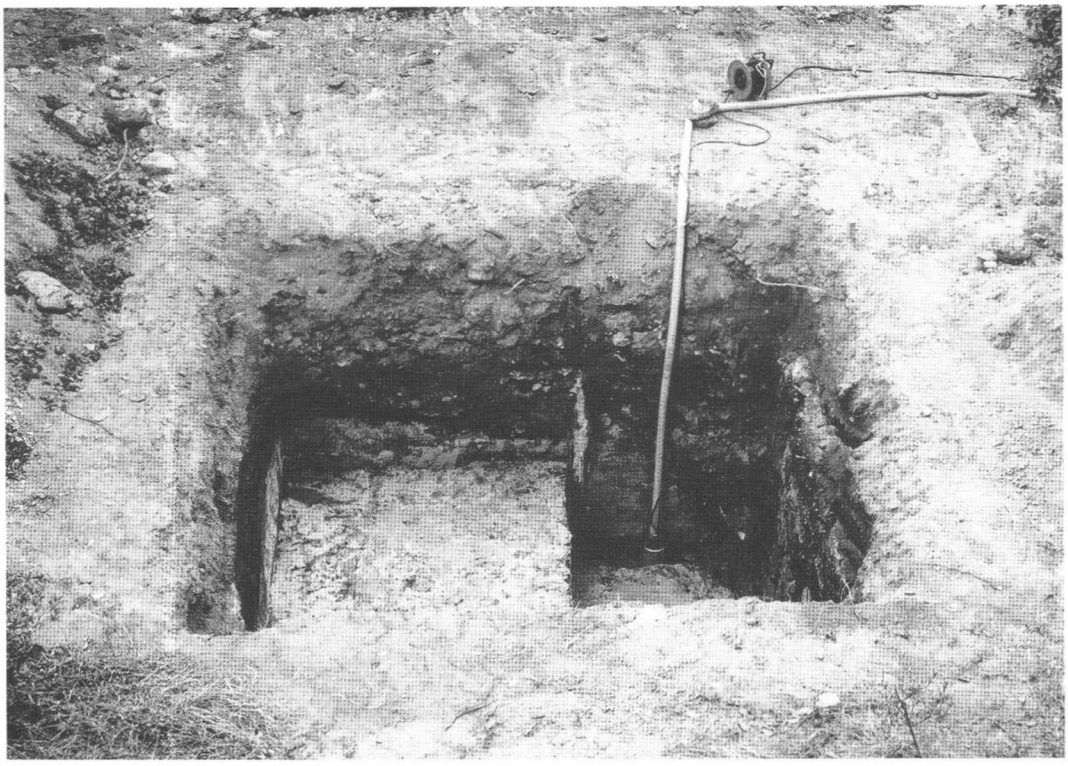
Ⅰ	表土	マサ土
Ⅱ	建物基礎	コンクリート
Ⅲ－1	造成土	暗黒茶色土
Ⅲ－2a	造成土	暗黒茶色土（白色粘土ブロック混）
Ⅲ－2b	造成土	黒色石炭灰
Ⅳ	水田耕土	暗灰色粘質砂
Ⅴ	水田床土	暗緑黄色土
Ⅵ－1	整地土	マサ土
Ⅵ－2a	整地土	暗白黄色粘質砂（床土ブロック混）
Ⅵ－2b	整地土	灰白色粘質砂
Ⅵ－2c	整地土	暗白紫色粘質砂（床土ブロック混）
Ⅶ	地山	暗白色粘質砂

Fig.68　調査区土層断面図

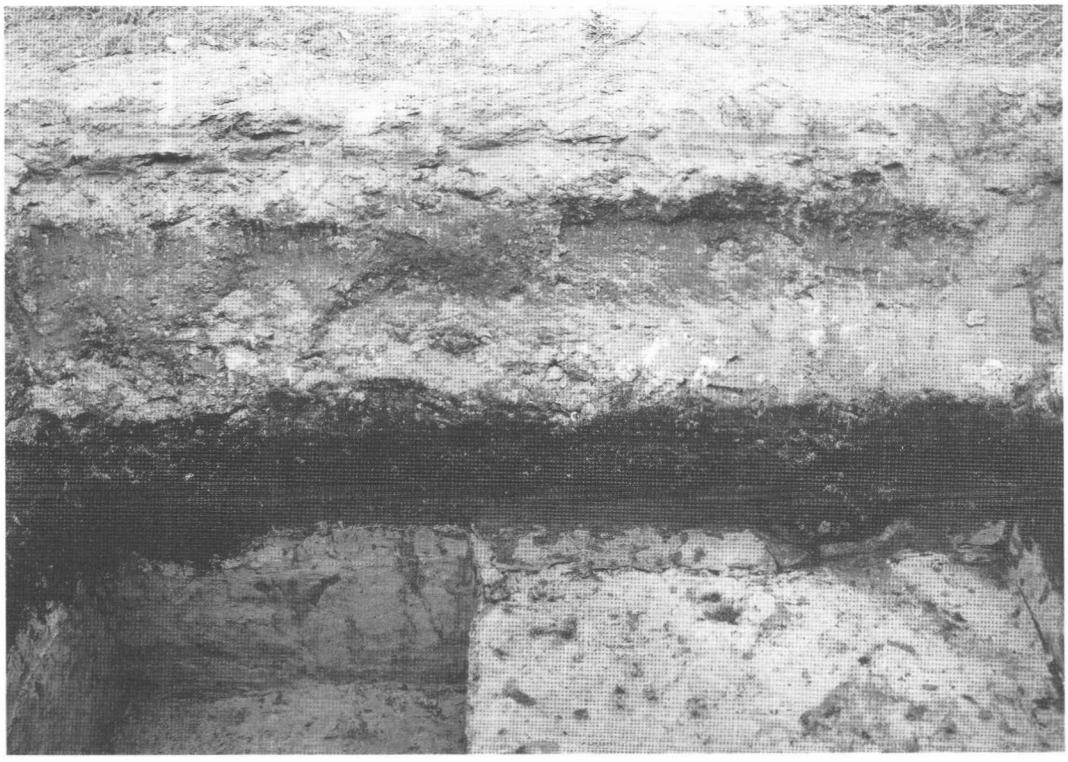
(3) 小結

今回の調査地では、第Ⅲ層の堆積状況から良くわかるように、地山層に及ぶ大規模な撹乱がみられた。そのため、良好な状態での地下状況の把握が困難で、調査規模が小さいこともあり遺構は検出することができなかった。遺物の出土も少量で、近世以降の磁器小片が僅かに出土したのみである。小串構内の既往調査では、旧石器時代の遺物包含層が確認されている。今回も、これに関連する遺物の出土層を検出することを目的の一つとしていたが、可能性のある土層を確認することはできなかった。地山である第Ⅶ層については、調査区西側の約1.5mの範囲で、土層全体を上面から約70cmの深さまで掘り下げて遺物の有無を調査したが、遺物を検出することはできなかった。土層の状態から遺物を含む可能性は低いと判断した。今回の調査では、調査面積が小さかったために、安全面の配慮からこれ以上の深さに及ぶ調査は断念したが、より深い場所での埋蔵文化財の所在は未だ否定されたわけではない。今後の施設整備では、状況に応じて対応して行く必要があろう。

（村田）



(1) 調査区全景（北から）



(2) 調査区北壁土層断面（南から）